

【総合的な学習の時間】 第6回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 探究計画書兼報告書について

2. 本時の概要

本時は、中学2年生の「総合的な学習の時間」における第6回「探究計画書兼報告書について」の授業である。

これまでのグリーンスクールでの実地調査やチーム編成を経て、本時から具体的な探究の「計画」を立て、情報を体系的に管理・整理する段階へと移行する。生徒は、これまでの個人での学びをチームで共有し、リサーチクエスチョン(RQ)や仮説の設定といった、探究の骨組みとなる計画を練り上げていく。

この活動で特に重視しているのは、「振り返りの習慣化」と「探究プロセスの構造化」の二つである。日々の学びを「LIFEログ」として記録し、客観的に自分を見つめ直す「学びのサイクル」を確立すること、そして探究の背景から結論までのプロセスを見通す力は、論理的思考力と自律的な学習姿勢を養う上で不可欠な要素である。

第6回となる本時では、まずグリーンスクール事後学習として、評価項目を意識した特集記事の作成を継続する。次に、「LIFEログ」の意義とループリックを学び、自己評価を行う。さらに、チームで「探究計画書兼報告書」の作成に着手し、今後の調査・分析に向けた見通しを立てるとともに、情報収集を支援するWebサービス「RefNavi(レフナビ)」の導入を行う。

これらの活動を通して、自身の学びをメタ認知し、チームとして目的意識を持った組織的な探究活動へと繋げるための基盤を築くため、本時を設定した。

3. 本時の目標

- **探究計画の構造理解と見通しの立案:** 探究計画書兼報告書の構成(テーマ、背景、目的、方法等)を理解し、9月の報告会を見据えて、チームで協力しながらRQや仮説、検証方法を具体的に言語化できる。
- **質の高い振り返りによる成長の促進:** LIFEログの3つのレベル(体験、自己評価、次への行動)を理解し、ループリックを意識して自身の学びや変化を客観的に記録することで、主体的に学習をコントロールしようとする。
- **ICTツールの活用による情報管理能力の向上:** 情報収集支援ツール「RefNavi」の操作方法を習得し、出典の明示や情報の適切な蓄積・共有を通じて、探究活動の客観性と信頼性を高めようとする姿勢を養う。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第6回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 生徒用配布プリント:

- グリーンスchoolのしおり(冊子、事前に配布済み)
- スクールタクト課題『グリーンスchool事前事後学習』(デジタル学習ツール上で配信)
- スクールタクト課題『LIFEログ』(デジタル学習ツール上で配信)
- 探究ノート(デジタルファイル配信)
- 探究計画書兼報告書(デジタルファイル配信)

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
2分	1. 本時の事後学習の目的を確認する。 特集記事作成の最低目標(テーマ確定と情報整理)と、最終的な評価ポイントを把握する。	スライドを用いて事後学習の見通しを持たせ、9/6の発表会や文化祭展示に向けた意欲を喚起する。
48分	2. 特集記事の執筆と情報の再構成を行う。 テーマに応じた情報収集・整理を行い、スクールタクト(p.4-8)へ入力した下書きを基に、図表データ等を含めた記事を完成させる。	スクールタクト課題『グリーンスchool事前事後学習』上の評価項目を意識して作成するよう促す。
【2時限目】		
1分	3. 2時限目の学習の流れを把握する。 (1)LIFEログ、(2)探究計画書、(3)RefNaviの三つの活動内容を確認する。	スライドを提示し、時間配分を明示する。
4分	4. LIFEログの意義とルーブリックを理解する。 自己評価の3段階基準(レベル1～3)を把握する。	「今日の振り返りが、明日の自分をつくる」というキャリア形成上の重要性を説く。 単なる記録に留まらず、変化に気づく「レベル3」の記述を目指すよう指導する。
10分	5. LIFEログへの記入と自己評価を行う。	自分の言葉で書くことを尊重し、成長につながる「質の高

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	教科学習、探究、諸活動の1週間を振り返り、内容を象徴するタイトルを付けてスクールタクトに入力する。	い振り返り」を支援する。
20分	6. 探究計画書の構成を理解し、作成を開始する。 個人で進めた内容をチーム内で共有し、9月の報告会に向けた「探究計画書兼報告書」の(1)～(4)の項目をまとめ、記録を開始する。	探究の「計画部分(RQ、仮説、検証方法)」を固める重要性を説明する。 リーダーを中心にGoogle Driveでの共同編集を指示し、担当教員が随時進捗を確認する。
15分	7. RefNaviの導入と操作習得を行う。 情報収集支援ツールのログイン、ブックマーク、グループコード登録を行い、解説映像を視聴して資料の登録方法を学ぶ。	動画を視聴させ、実際に1つ以上の資料を登録させることで初期設定を完了させる。 出典明示の簡便さと情報の可視化というメリットを強調し、今後の活用を促す。